

まえがき

ずっと 幸せを求めて 頑張ってきたけれど…
なかなか 人生は 思うようにいかなくて

幼い頃に 想い描いていた 夢は いつしか 遠い幻に…
気がつけば 三十路を超えて 会社と家を往復しては
疲れたまま ぐったりと ベッドに横になる毎日

最近の世の中は 全く おかしなことばかり 将来の保証もできないわ

人生って 一体 なんだろう？ わたしは これから どこへ向かっていけばいいの？

白馬に 乗った 王子さまも
あんなに 夢見た ステキな ドレスも

永遠の愛 なんて…
永遠の幸せ なんて…
やっぱり… 幻？



「さあ 眠り姫♡ もう 目を覚ますときが きましたよ
あなたが 本当は 『プリンセス』 だという『真実』に」

そのとき、キラキラと部屋の片隅で何かが光りました。

「あ… あなたは誰!？」

「わたしは あなたよ 未来のあなた
あなたに 招待状を届けに来たの」

「え〜!? 未来のわたし? …ねえ、あなたはわたしの未来を知っているんですしよ?」
わたし、ちゃんと結婚できるのかな?

好きな人にはなかなか振り向いてもらえないし、妹にも結婚を先越されて。
最近恋愛映画もむなしくて観れなくなっちゃった。

仕事も人間関係も…何もかも上手くいかなくて、

正直、もう…疲れちゃったの。こんなわたしでも幸せになれるの?」

「答えは あなたのハートのなかにあるわ

あなたは ちゃんと知っている

でも それを想い出していくためにも この秘密のレッスンを届けに来たの」



「プリンセスってことは…わたしにも王子さまがいるの？」

「ええ もちろん」

でも 大切なことを覚えておいてね

本当の王子さまは あなたの中にいるわ」

「わたしのなかじ…？」

「そう… 覚えていくかしら？ 生まれてくる前に 交わした『運命の約束』」

「運命の約束…？」

その言葉で、ハートの奥で何かが鳴り響いた気がしました。

「やあ あ、もう時は近づいてくるわ…」

そろそろ舞踏会に行く 準備をはじめの時間よ

これからあなたの 新しい人生の幕が上がるの

今日から あなたは 『プリンセス』 『魔法のロイヤルプリンセス』よ

そのことを いつも 忘れないうでね」



その言葉を最後に、その不思議な声は聞こえなくなりました。

*
*

こんにちは。プリンセス魔法の学校の Maya と申します。
もしも、ある日突然、不思議な声が聴こえてきて…

あなたは 本当はお姫さまです

今日からあなたは お姫さまとして生きてください
本来のあなたに相応しい 夢のような薔薇色の人生へと 導いていきましょう

そう言われたら、どう思いますか？

まるでおとぎ話や映画の世界に入り込んだみたい！ これはただの夢？ 妄想？ って思つかもしれませんね。

でも、それは夢でもなんでもなくて、あなたの真実の物語…。だとしたら？

これは今から10年前、まるで悲劇のヒロインのような波乱万丈の人生を送っていたわたしの身に、実際に起こったお話です。



そして、この本は、未来のあなたから届けられた、魔法の招待状♡

この本を手にしたあなたは、すでに夢のお城へと向かう薔薇色の扉を開いています！
長い長い眠りから目を覚まして、光り輝く本来のあなたに還っていくために…。

さあ、一緒に魔法のレッスンを始めましょう♡

